

【北海道新聞・日刊留萌新聞に掲載されました】

1月30日（水）、本校体育館にて韓国短期留学報告会を行いました。留学した8名の生徒が留学中に学んだことや感じたことをまとめたプレゼンテーション、留学中の様子のビデオ上映を通して、充実した短期留学となったことを全校生徒、町民の皆様に報告しました。留学した生徒を代表して3年A組の佐藤未結さんが「韓国短期留学に協力していただいたすべての皆様に感謝します。」とお礼の言葉を述べました。

今回の報告会には羽幌町長の駒井久晃様、羽幌町教育委員会教育長の山口芳徳様、羽幌町国際交流協会会長の蒔田光子様をはじめとする多くのご来賓、保護者、地域の皆様にご来場いただきました。報告会に来ていただいた皆様、韓国短期留学に協力していただいた皆様に感謝申し上げます。

<北海道新聞>

17

地域の話題

2019年(平成31年)2月2日(土曜日)

学んだ異文化「一生の宝」 羽幌高で韓国留学報告会

【羽幌】羽幌高(宮下裕加校長)で1月30日、韓国短期留学報告会が開かれた。昨年8、9月、ソウル近郊の富川市の素明女子高に留学した生徒8人は「異国の文化に触れ、貴重な体験ができた」「今後の人生に役立てたい」と語った。

韓国留学は両校の相互訪問による「草の根」交流事業として羽幌国際交流協会が1999年から続けている。朝鮮半島情勢の緊迫化などで渡航中止になったこともあったが、双方8回ずつ延べ178人が参加。20年目の今回、引率者を兼ねる最多の14人が訪問した。

報告会は、町の人づくり事業補助金で渡航費の支援を受けていることから、町民にも広く活動を知ってもらおうと開催した。会場には全校生徒と教職員、駒井久晃町長、同協会の蒔田光子代表や会員ら計約180人が集まった。

8人は素明での授業風景や歓迎式典、課外活動のキムチ作り、ホストファミリーとの交流など思い出の写真をスクリーンに映し、発表した。佐藤未結さん(3年)は「多くのことを学んだ。お互いの文化や歴史の違い、尊さが分かった。未来の国際交流における私たちの使命も感じた。一歩踏み出す勇気は一生の宝になった」と語った。



韓国短期留学での体験を発表する生徒たち

ともあったが、双方8回ずつ延べ178人が参加。20年目の今回、引率者を兼ねる最多の14人が訪問した。

報告会は、町の人づくり事業補助金で渡航費の支援を受けていることから、町民にも広く活動を知ってもらおうと開催した。会場には全校生徒と教職員、駒井久晃町長、同協会の蒔田光子代表や会員ら計約180人が集まった。

8人は素明での授業風景や歓迎式典、課外活動のキムチ作り、ホストファミリーとの交流など思い出の写真をスクリーンに映し、発表した。佐藤未結さん(3年)は「多くのことを学んだ。お互いの文化や歴史の違い、尊さが分かった。未来の国際交流における私たちの使命も感じた。一歩踏み出す勇気は一生の宝になった」と語った。

引率した吉村麻友子教諭は「ホームステイは楽しいだけじゃない苦労もあったと思う。それは量なる観光旅行では得られないものだ」と指摘。最後に駒井町長が講評し、「日韓のつながりを自分の目で見てきた皆さんが、その貴重な体験を周囲に伝えることでさらに有益になる」と述べた。(長谷川賢)

「学んだこと生かす」

羽幌高で韓国短期留学報告

【羽幌】羽幌高校（宮下）の韓国短期留学報告会が、裕加校長、生徒157人の参加で、1月30日午後1時15分から

同校体育館で開かれた。昨年韓国の素明（ソミョン）



撮影した写真を使いながら短期留学の様子を報告する羽幌高校の生徒たち

女子高校に短期留学した生徒8人が、実り多かった留学を振り返った。

短期留学は、昨年8月28日～9月3日の6泊7日の日程で行われ、1～3年生合わせて8人が参加。ホームステイ先に宿泊しながらソウル市内の同女子校の授業に参加、郷土芸能ごきりこの「神楽舞」を発表したり、文化体験で光明洞窟などを訪れたり、ソウル観光なども行い、同女子校の生徒と友情を育むとにも見聞を広めてきた。

全校生徒のほか町国際交

流協会員ら約20人も参加した報告会では、宮下校長が「世界へと目を向け、世界とのつながりの中で自分を成長させていく可能性と力を身につけてほしいと願っています」などと、生徒たち

に語り掛けた。
このあと、参加した生徒が2人一組になって、留学中に撮影した写真をプロジェクターでスクリーンに映し出しながら、同女子校での授業や光明洞窟訪問やキムチづくり体験、ロッテワールド観光の様子などを説明。「このような機会を与えてくれた人たちに感謝しています。短期留学で学んだことをこれからの生活に生かします」などと話していた。（見玉一明）